山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和６年１月１５日（月）　第３８号
２次元ｺｰﾄﾞ ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

「言語環境づくり」の重要性

本通信３６号で紹介していた「（職員室設置の）ビブリオトークコーナー」で少しずつ動きが見られるようになっています。左図は、小田原Tと熊本Tがコーナーに置いてある本について語り合っている様子です。現在コーナーには、「これはぜひ読んでもらいたい」と思ったおススメの本が５冊ほど置いてあります。お互いに手に取って持ち帰って読まれている様子を多く見かけるようになりました。

さらに子どもたちも読書への関心が高まっている事が２学期末のアンケート結果からわかりました。まずは身近な大人が関心を示すことが大切です。私自身図書館が好きですので、わが娘が小さい頃はよく町図書館に連れて行ったものです。その娘も母となり、わが子（孫）をよく図書館に連れて行っています。まだ０歳ですので、今後「読書」に繋がるかどうかは不明ですが、少なくともタネは蒔いているのかなあ・・と思いながら見守っています。

１２／１９付本校ＨＰ「学校生活」に掲載していますが、校長室前の関所お題「（古典落語の長い名前の噺である）寿限無・・・を言ってから入りなさい」を設けています。面倒くさがってこのお題を避けているような感じの子も多いのですが２年生Ｋさんと１年生Ｅさんは、すべて暗記しており、スラスラ言ってから入室してきます。「落語に興味を持ってほしい」と思いながら読み聞かせしたことを受けとめてくれた子が２名もいたことはうれしいです。「音読・暗唱」は、人間としての成長を促し、感性を育むからこそ昔から取り組まれているのです。

「言語環境づくり」は大切だと改めて思いました。冬休みに読んだ「読書革命」（金川顕教著　総合法令出版）という本に載っていた言葉が印象に残っています。

「読書は知識を得るためではなく思考を磨くためにする」

潤徳抄Ⅱ

この土日に令和７年度大学入学共通テストが行われた。毎年この時期になると自身の大学受験のことを思い出す▼このテストは、私の時代で言えば大学共通第１次学力試験（共通１次）にあたる。私は１年浪人したので２回受験した。懐かしい思い出だが、もう受験はコリゴリだ苦笑▼私は、教師人生のほとんどが中学校勤務だったので高校入試・大学入試の出題傾向に関心を持って注視してきた。これまでのテストとは異なり、共通テストでは、「読み解く」力を求められるようだ。ちなみに熊本県では、現在小学校６年生の高校受験時から公立入試の方法が変わる。今後は、こういった上級学校情報にもぜひ関心をもっていただきたい▼一昨日、熊本市内で行われた文部科学省の武藤氏の講演を聴く機会があった。ＧＩＧＡスクール構想関連の話だったが、「潤徳小学校の取組や考え方は、先進的である」と自負することができた。